

## 自立活動の指導について

教諭(兼)教育専門監 朝倉 紀子

自立活動は、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するための学習です。つまり、「これ」ができるようになれば、あるいは「ここ」がもっと改善されれば、この子はもっと楽に、楽しく学習や生活ができるだろうの「これ」「ここ」というその子どもの中心課題を指導することが自立活動です。障害特性をふまえた困難さへの対応という視点だけでなく、将来の姿を想定した学習課題を検討し、あわせて、児童生徒本人も、自分はどうなりたいのかという子ども側の観点をもつことも、子どもたちの主体的な取組に欠かせない視点です。

そのためには、やはり適切な実態把握が大事になります。今、何が課題になっているのかの「これ」「ここ」の部分を整理し、将来どのような姿になってほしいのかという目標を設定していきます。実態把握では、できないことに目がいきがちですが、できること、少し頑張ればできそうなことを確かめることが大切です。「少し頑張ってやってみたらできた!」が積み重なれば、子どもの自信につながり、できないことが目立たなくなったり、できなかったことに挑戦できるようになったりするということがあります。自立活動の指導においては、得意な部分を生かし、苦手な部分とどう組み合わせるかを検討していくことが重要です。

## 自立活動の実践例を紹介します

### 小学部の取組

小学部では、教育活動全体を通して、自立活動に取り組んでいます。課題の解決に向けての取組を紹介します。

〈ねらい〉

- ・Aさんが他者に伝わりやすい方法(カード、ささやき声など)でコミュニケーションをとったり、学級での役割を果たしたりする。:人間関係の形成(3)・環境の把握(1)・コミュニケーション(2)(4)

〈児童の実態〉

- ・不安なときや、意に沿わないとき、思いを遂げたいときに、他者や自分を反射的に引っ掻いてしまう。
- ・全かん黙の状態が見られる。他者に何かを伝えたいときは行動や小さなささやき声で表す。

〈手立て〉

#### ①安心できる学校生活の保障

- ・心情や願いの言い当て、代弁 ・ネガティブな感情の肯定 ・学習課題の調整

#### ②身体感覚を育てるアプローチ

- ・揺れる、回る、跳ぶ運動や遊びの日常化 ・身体の緊張を緩め、自律神経の働きを整えるタッチケア

#### ③言語にこだわらない表現方法の導入

- ・絵カード交換式コミュニケーション



- ・気持ちのバロメーター表



〈児童の変容〉

- ・6月末から、笑い声や思わず出る声が増えるようになった。柔らかな表情や活発さが増した。
- ・7月末には引っ掻くような危険な行為が見られなくなり、不安なときは教師の側に来るようになった。
- ・11月から、意図的に声を出して話す段階に移行。教師の復唱、挨拶、返事、係活動のせりふ等、場面や言葉を限定した状況で明瞭な声が出るようになった。

## 中学部の取組

中学部では、教育活動全体を通して、自立活動に取り組んでいます。課題の解決に向けての取組を紹介します。

〈活動内容〉給食の献立記入

〈ねらい〉

・手本を見て、正しく視写する。:環境の把握(4)

〈生徒の実態、願い〉

- ・平仮名や片仮名の字形が崩れやすく、線が重なったり、濁点や半濁点が離れたりする。
- ・平仮名を上手に書いたり、自分の名前を漢字で書いたりできるようにしたい。

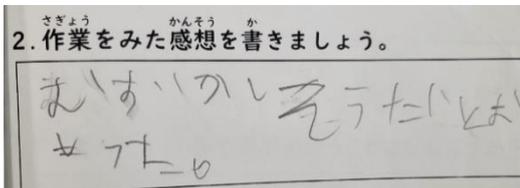
〈手立て〉

- ・マス目の枠が入ったプリントを用意し、マス目に沿って見本を提示した。
- ・正しい姿勢(背筋、手足の位置、体の向き)の確認をした。

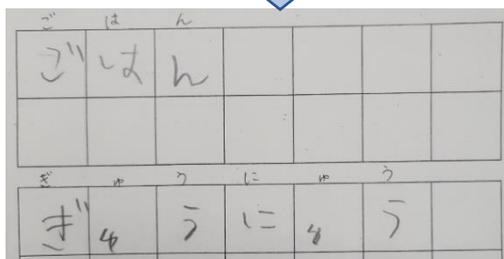
〈生徒の変容〉

- ・枠の中に収まるように書くことを意識している。はみ出したら自分から直している。
- ・朝の会で学級の友達が自分の書いた献立表を読み上げてくれることによって、上手に書けた(相手に伝わった)という達成感を味わうことができ、自信につながった。また、担任以外の教師にも見てもらい、ほめられたり、アドバイスをもらったりすることが意欲につながっている。

6月17日



12月17日



## 高等部の取組

高等部では週4日、朝の25分間、自立活動の時間を設定しています。個々に応じた目標のもと、集団で活動したり、個別で活動したりして目標達成に向けて取り組んでいます。

〈活動内容〉グループエンカウンター

〈ねらい〉

- ・自己理解や他者理解を深める。:人間関係の形成(2)(3)
- ・人との関わりの力を身に付ける。:人間関係の形成(1)

〈クラスの実態、願い〉

- ・自分や周りからの見え方を含めた自己理解の不足
- ・人との適切なコミュニケーションの取り方ができるようになってほしい。

〈手立て〉

- ・話すときや話を聞く時のルールを決め、活動の前に毎時間ルールを確認した。
- ・初めはペアで、徐々にグループにするなど、段階的に進めた。
- ・生徒が意欲をもって取り組めるようにさまざまなテーマを用意した。

〈生徒の変容〉

- ・活動を通して、自己理解や他者理解が深まった。
- ・話の聞き方(話をしている人を見て聞く、頷きながら聞くなど)が他の授業場面でも生かされた。

